

No. 190

令和2年12月17日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



「継続する心」 ～その1～

ごぶさた【御無沙汰】 長らく訪ねなかったり、便りをしないままでいたりすること。また、それを詫げるあいさつに用いる語。「久しくご無沙汰しています」
Weblio 辞書より

いやあ、すっかりご無沙汰してしまって、申し訳ありませんでした。いきなり言い訳からになってしまいました。三教研会長としての対応やら、人事に関する書類の作成・整理やら、相次いで依頼され山積みになっていた原稿の執筆やらと格闘していたら、季節はすっかり冬になってしまいました。重ね重ね申し訳ありませんでした。

ずいぶん前のことですが、10月27日(火)、田原文化会館にて、三河教育研究会保健体育部会秋季研修会が行われました。研修会の講演講師としてお招きしたのが元中日ドラゴンズ、現在は野球解説者・スポーツコメンテーターとしてご活躍の 山本 昌 氏です。今号と次号にわたって、山本昌氏の講演「継続する心」の概要をお伝えしようと思います。

◆ドラフト会議

今年はイレギュラーなシーズンとなってしまった。大会で活躍して大学に進学したり企業に就職したりしようと思っていたのに当てが外れ、人生が変わってしまった選手もいるはず。

そんななか、昨日ドラフト会議が開催された。ドラゴンズの1位指名は、中京大中京高の高橋宏斗投手。ドラフト会議の様子を見て、「いつかはドラゴンズのユニフォームを着たい」という思いを強くした。

◆出会い

角田先生（中学校時代の恩師）との出会い。厳しい先生だったが、キャッチボールの基礎基本を学んだ。角田先生の指導で、肩や肘に負担のない投げ方が身についた。おかげで、肩や肘にメスを入れることは一度もなかった。先生には子どもたちの運命を変える力がある。

中学時代は「怪童」と呼ばれたエースピッチャーの陰で、中2から卒業まで、4kmのジョギングと素振りの毎日だった。当時は大学へ進学し、学校の先生になろうと思っていた。しかし、「怪童」が最後の夏の大会直前にけがをして、急きょ背番号1を背負うことに。運がよかったのか、茅ヶ崎・湘南大会で優勝し、県大会への出場を果たした。

高校進学を前に、強豪校からお誘いを受けた。そして甲子園を夢見て日大藤沢高校へ進学した。しかし、甲子園への道は遠かった。神奈川県でナンバー1だった横浜商高に0-14で敗戦。当時神奈川では「浜商に勝たないと甲子園はない」と考えられていた。

それからというもの、週に一度は200球の投げ込みを敢行した。1学年上に前橋育英高監督の荒井直樹さんがいて、毎日一緒に8kmのロードワークをこなしていた。

翌年、再び準々決勝で横浜商高と対戦。今度は2-3の惜敗だった。以来、春・夏・秋の県大会は、全て準々決勝で敗退してしまった。

3年生の秋、神奈川県選抜に選ばれた。運よく辞退者が出て、繰り上がりでの選抜選出だった。この神奈川県選抜チームで挑んだ韓国戦で好投し、ちょっぴり注目を浴びた。

ドラフト会議当日は、教室で授業を受けながら、イヤホンでラジオ中継のドラフト会議の様態を聞いていた。当然指名されることはなく諦めていたとき、教頭先生に呼ばれ、「ドラゴンズからドラフト5位指名」の報告を受けた。

父親の「お前、どうすんだ」という問いに「大学へ進むよ」と答えていた。父親は長野県飯田市の南出身で、大のドラゴンズファンだったこともあり、「お前、どうすんだ」を1週間問い続けられた。

中学でも高校でも、最後の最後に野球選手としての転機が訪れた。
(次号へつづく)